家出娘・暴力団・犯罪者

西成区のある断面

立木俊二

その一

やっと、探していたSアパートが見つかった。場所は西成区花園町の路地裏である。

アパートと言っても、見るからに安普請の二階建の建物だった。薄茶色のセメント瓦が、煤煙のために薄汚れ、壁の一部がはげているのも、かえって付近の建物や、周囲の環境と調和しているかのような感じだ。

管理人室も受付も見当らないので、大きな声で〃今日は〃と案内を求めたが、何の反響もない。

二、三分経った頃、睡むそうな眼をした中年の婦人が、汚れた洗濯物を抱えて降りて来た。「家出娘F子18才」の事をそれとなく尋ねて見ると、名前は知らないが、そのような人相の娘っ子が、一、二カ月前から二階の五号室にいると言う。

最初はウサン臭そうに警戒していたが、その娘の親族の者かと思ったのか、打解けた態度ですらすら話し出した。

話しの内容を綜合判断すると、二階の五号室にいるその娘っ子というのは、F子に違いないようだった。

その日の朝、難波補導センターにやって来た一人の男がいた。その人は和歌山市内で金物屋をしているF子の父だった。ひどくかっぷくは良いが、顔には暗いカゲがさしていた。

〃実は長女のF子の事で相談に参りました。F子は和歌山市の中学校を卒業し、大阪のミナミのある百貨店の食堂に勤めていました。ところが今年の三月下旬頃から、帰宅する時間が終電車の頃になったり、どうも様子がヘンなので、私も注意するし、母親もひどく叱った事が、何回もありました。

そうこうしているうちに四月中旬頃、急性盲腸炎になり、三週間ばかり入院させ、病気が直ってからは食堂は罷めました。

それでも前の勤め先の関係もあって、退院後は大阪に行くと言って出かけ、夜おそく帰って来るのが続きますので、叱り飛ばしたら、急に家出をしてしまったんです。

大阪のミナミの方にでもいるのではないかと思い、探して貰いたいと思いまして……〃

と言うのが、F子の父親の話だった。私達は早速その百貨店の食堂に行って、F子の行状を調査して見ると、父親の言う通り五月上旬に食堂を退職していた。

F子の同僚だった給仕人のうち、懇意だった二、三の連中に会って、F子の日頃の状況を聞いてみると、F子は食堂に勤めているうち、四月頃から夜はスタンドバーMに、アルバイトの女給として働いていた事が判った。

盲腸炎で入院し退院後は、そのスタンドバーで働いていたが、最近の住所は花園町付近のアパートで、友達と一緒に暮らしているらしいと言う。

そんな事で花園町付近のアパートというアパートを一軒、一軒探し歩いて、F子の借りているSアパートを見つけたのが、事のイキサツである。

私達は脱いだ靴をぶらさげて、トントンと二階に上った。五号室の戸は締められていたが、どうやら人のいる気配がする。ノックすると〃入れ！〃とドスの利いた声が流れて来た。

思い切ってドアを開けると、三畳敷位の小さな部屋の中に、F子と思われる娘と、同年輩位のあくどい化粧をした少女が、肌も露わなシュミーズを着たまま、寝転んでいた。その横には愚連隊風の二十才位の若者が南京豆を噛じりながら、仰向けになって寝ていた。

狭い三畳の部屋に三人が雑魚寝しているだけでも狭いのに、読みさしのカストリ雑誌、不良週刊誌が散乱し、小さな煙草の灰皿には煙草の吸殻が山のように積まれていた。

壁には映画スターのプロマイドなどが貼られており、たいはいした空気が澱んでいる。

〃僕は補導センターの者ですが、あなたはF子さんですね〃

と言うと、F子の表情が一瞬硬ばった。それでも両親も心配しているからと話し、難波センターに来て貰うように言うと、F子は直ぐ身支度をして私達に同行した。

難波補導センターで事情を聞くと、次のような事だった。

中学を出て百貨店の食堂で働いたが、何のヘンテツもない生活だった。それに毎月の定った僅かばかりの月給では、上等の化粧品も流行の衣裳も買うのに不十分だった。

そんな事で夕刊新聞の求人広告で、バーMにアルバイトの女給を募集していたので、応募すると直ぐ採用してくれ、三月下旬頃から勤めだした。

カレーライスの皿を幾つも持って、客席をぐるぐる回わるよりも、お化粧をして猥雑な話を男としていればゼニになる女給商売の方が、彼女にとっては楽でもあり、愉しかった。

そして和歌山行きの終電車に乗って帰ると、両親から叱責された。それでも一度覚えたバーの空気は、忘れられなかった。

だから盲腸炎が直ってからもMの勤めは続け、百貨店の給仕商売とは縁を切った。ノンプロからプロになると、堕ちて行く速度は速かった。

五月中旬頃だった。その店の常連ではあるが、何を職業にしているか判らない通称Gと言う男、その情婦Yと言う女と懇意になった。そして彼等のグループである通称K及びO、更にOの情婦であるRとも知り合った。彼と彼女達の年輩は何れも二十才前後で、女達はハイティーンらしいので、よく気が合った。そしてF子はKと急速に接近し、肉体関係を持つようになるまでにそう暇はかからなかった。

三組のカップルが西成区内の安宿、アパートを転々として、情痴の世界に溺れていった。

＊　＊　＊

以上のような事情が判ったので、とりあえずF子を彼女の両親に引取って貰い、彼等のグループの洗いだしに掛った。

Gの情婦Yは十八才の時に堺市の自宅から家出、Oの情婦Rは十九才の時、郷里の福岡を後にして家出し、スタンド、バー等を転々としていた時、グレン隊のGやOと知り合い肉体関係を持つようになった。

一方G、K、Oの三人は、一定の住所や定まった職場もなく転々としていた。身許の調査を進めて行くと、G、K、Oの三人とも偽名を使っていた。

Kは21才、自動車泥棒という名前の職業、Oは20才、Kの配下で非行歴二回という窃盗常習者

Gは22才、ある重要事件の被疑者として収監状が発付されており捜査中のものといった具合の凶状持ち。

以上のようなわけで、F子については保護者に身柄を引わたしたが、G以下三名はGを捜査している所轄警察署に、彼等の情婦達の動向調査書と共に引継いだ。補導センターで取扱っている不良行為以上のものだったからである。

その二

西成区釜ケ崎。

東京の山谷に匹敵する街、それが釜ケ崎である。

L荘という名前のアパートは、釜ケ崎のドヤ街から少し離れた場所にある。一度行ったからと言って、直ぐ見付かるような場所ではない。建込んだ迷路を幾つか抜け、人が通れる位の細い路地を左に右にと曲ると、ようやく、表玄関らしいところに辿り着く。それがL荘という名前のアパートである。

木造二階建ときまり文句で書くと、チャンとした建物のような錯覚を起しそうだが、中に入ると三階建になっている。

階段は一米巾位の狭いものが表側に一つと裏側に非常階段らしい巾五〇センチ前後のものが一つあるが、それも風雨に曝されてかなり朽ちていた。

部屋は狭い廊下を中央にして、左右に二帖の部屋がズラリと並んでいる。部屋のドアも壁も、すべてがベニヤ板張りである。若し火災の時にはどうなるんだろうと、思いながら、一階から二階。二階から三階に登って行く。やっと目指す三五号室が見つかった。

ドアをノックして扉を開くと、どぎつい化粧をしたシュミーズ姿の三人の少女と、二十三、四才位かと思われるやくざ風の若者とが、折重なるようにしてごろ寝していた。

狭い部屋は化粧をした少女達の体臭で、むんむんするようだった。

私達がL荘アパートを尋ねたイキサツはこうだった。

その日から丁度三日前の事だった。その日は蒸し暑い夏の日の午後、神経痛で長い間、病床で臥せていたと言う大正区に住むY子の母親が、難波補導センターに尋ねて来た。

〃実は娘のY子の事なんですが、昨年中学校を卒業するとミナミのある喫茶店に店員として勤めるようになりました。あの娘は中学生の時にも一度家出した事もあるので、勤めだしてから間違いがないようにと心配していましたが、今年の三月頃迄は真面目に勤めてくれて安心していました。

ところが、そのうち帰宅時間が三時間も四時間もおくれるものですから、注意していました。すると四月の下旬頃突然親の目を盗んで、着替えの物を持出して、家出してしまったんです。家の恥になると思って警察に届をしなかったのと、私も持病の神経痛で寝込んでしまい、あれやこれやと取紛れていましたが、補導センターに行けば、子供の事は何でも親切に取扱ってくれるというので、実は御相談に上りました〃

と言う。家族の者が内々Y子の中学時代の友達を通じてY子の動静を聞くと、霞町付近の安宿かアパートにいるらしいと言うので、難波センターに来た事情も判った。

その日から私達のY子を探す活動が始まった。Y子の中学時代の親友だった友達、喫茶店に勤めていた頃の同僚等の線を通じ、彼女が住んでいるL荘の名前が調査線上に浮んで来るのに、まる三日もかかった。

そしてL荘の三階、三五号室でY子を発見したのだ。

＊　＊　＊

その後事情を調べると、次のようなことが判った。

Y子は喫茶店に勤めていた頃、友達とミナミのAダンスホールに出入するようになった。ダンスホールの若者達は若い娘には親切だった。彼女はそうした夜の魅力の虜となった。

親切な若者達の殆んどは、暴力団か愚連隊の若者達だった。

Y子も夜のミナミを支配するというM一家の若衆H24才と知り合い、彼の世話になって、L荘アパートに同棲するようになった。

彼と同棲したが、ロハで喰わしてくれるほど、暴力団は甘くなかった。売春をさせるには、少し若過ぎたのかも知れない。夕方になると七時から十一時までは、M一家の影響力のあるバー、キャバレー等を回って、原価はそう大した事もなさそうな花束を一束百円で売らされ、一束について二十円の口銭を貰って生活費の足しにしていた。

Y子を発見した時、同じ部屋におった二人の少女も家出娘だった。

S子18才は六月下旬頃東淀川区の自宅から、K子17才は七月上旬頃生野区の自宅を飛出し盛り場でウロウロしていると、M一家のHから甘い囁きをかけられると、ひとたまりもなかった。

そしてHとの間に特別な関係づけが出来ると、Y子のアパートに同居させ、花売りをさせられた。

一対三という奇妙な関係が既成のものであるかのように秩序づけられても、三人の娘達は家出して行先きもないんだから、止むを得ないと割切っていたのかも知れない。

家出娘の殆んどが暴力団や愚連隊の喰物になっているのだ。そして可憐な花売娘も、一皮脱げば暴力団の勢力下に置かれている事実を私は指摘したい。

そして彼等のアジトや生活の本拠が、西成区、浪速区あたりの安宿やアパートに多いという事ももっと直視されてもよいはずだ。

保証人も、米穀通帳も身分証明書も要らない世界、そして過去を問わない地帯、それがスラムだ。

幸いこのケースは偶然届出のあった二つの事件から、五人の家出娘を発見し、それぞれの親もとに送り返す事が出来たが、無数に並んだあのアパートの各部屋毎にどんな秘密が隠されているのだろうか。

——難波補導センター係員——

西成のある不就学児の場合

埋もれた中から拾い出す

中村福子

街頭の補導も四月の新学期ともなれば何となく気分が改まる。

大きなランドセルを背負った新入学児童や、新しい白線の制帽をかぶって嬉々とし

た中学生の姿を街で見かけることは心嬉しいけれど、スラム街を区域に持つ補導パトロールでは、こんな学期初めにも関係なく、街頭を浮遊する不就学の子供達をしばしば見かける。

家庭的に恵まれないこれらの少年の問題は、どうしても不良化、犯罪化へとつながってゆく。

K夫君もその不幸な少年の一人だった。

私どもがこの子と初めて出会ったのは、四月中頃の午前補導のある日、いつもの天王寺公園のパトロールを、更に南海線ガード際からバラック住宅の密集した地帯まで延長した。

油汚れした〝夜なきソバ〟のがたがたした屋台店が、昼間なのでホコリを一面にかぶって細い道路わきに放り出されて並んでいる。そんなところを通り過ぎると、おしめの干した空地の横で一人しゃがんで土の上に何か字のようなものを書いていた子供、これがK夫君。

色白で利口そうであるが、どことなく横顔が寂しい。長欠児ではないかと思ってきいてみると、果して去年の十月から学校へ行っていないとのことで、通学していれば今は小学校二年生である。

「ぼく、学校へ行きたいけど行かれへんのや」

というのでわけを聞いてみると

「お母ちゃんいるよってにおいで」

こういいながら先に立って走り出したかと思うと、十軒程向うの曲り角から顔を覗かせて

「ここや」

と手を振って私達を呼ぶ。それからバタバタと家の中へかけ込んで行って、白い大きなエプロンをかけた律気そうな感じの母親を伴って出てきた。

その家は○○屋と看板のあがった簡易旅館、入口の横で井戸端会議中だったおかみさんや、水商売女の化粧のとれた生気のない顔が三つ四つ、不審げに見馴れない客の私どもを見る。

我々の用件がK夫君の学校のことだと分るとお母さんは急に救われたような顔をして、

「いろいろきいて頂きたい話がありますが、どうかあがって下さい」

と私どもを招じ入れようとしたが、もう正午も近かったので、この日はひとまずセンターへ引揚げた。

約束に従って翌日家庭訪問し、私の案内された部屋は○○屋旅館突当りの三帖、中へ入ろうとしてみると、右手に大きな繃帯をした若い男が仰向けに寝ていたが、あわてて起きあがり

「私がK夫の父親です。どうもいろいろお世話様になりまして」

と叮寧にあいさつをした。

私は不就学児童の家庭訪問を重ねた経験から、垢にまみれた夜具や衣類、部屋の中のムッとするような悪臭には驚かないが、このK夫君の住いの、隅々まで行届いた清潔整頓ぶりは思いの外だった。

満足な家財道具一つない貧しい生活状態だったけれど、窓先に干してある子供の肌着類をみても、使い古してツギさえ方々に当っているのが真白に洗いあげられて、働きものの母親の性格がしのばれる。

ところで両親から話をきけば、K夫君を七カ月も通学させられない理由はこうである。

結論を要約すると、前住地の住民票と前通学校の証明書が取りに行けないので転校手続きができないことと、養父が負傷し経済的に行き詰って、本代等学校費用の出所がなくなったこと、しかもこれらの内容は複雑なので、更に詳しくいきさつを説明しなければならない。

K夫の実父は彼が四才、弟が生後間もなく病死した。頼りとする親戚もなく母親は

幼い二児を抱えては外へ働きに出ることもできず困っていたところへ「子供も一緒に住込める炊事婦だから」と、世話する人があって入ったところが飯場だった。

母子三人が食べてゆきさえすれば、どんな処でも辛抱しなければならない。彼女ははげしい労働と安い賃金に、不平もいわず一生懸命働いた。やがて、その飯場で工夫として働く男と結ばれ、K夫にとっては新しい父親ができた。

しかし、彼が前科者だということが分った頃から、次第に本性をあらわしたというか、飲酒におぼれ、母親が子供達を可愛がることが気にいらず、K夫のすることなすことを怒り、「この厄介坊主め……」と、理由もなく殴っては傷を負わせることがしばしばあった。

「父ちゃんが恐いからどこかへ逃げよう」と幼いK夫から訴えられる度に、母親は身を切られるようにつらかったという。

そうするうちに幸か不幸か、暴力的な犯罪事件を犯してこの父親は拘置所に入ったのでもともと内縁関係だったことではあり、母はこの男との縁を切った。それが去年の夏。

こんな不幸な母子の様子を、じっと横から眺めて同情していたのが彼女の第三の夫、即ち現在のK夫の父親だったわけで、彼はとび職人として、当時北大阪のあるビルの建築に従事していて、この飯場に働きにきていた。K夫の母親よりは六ツ年下の二十六才。

彼は少年時代実母に死別し、年若い継母に冷い扱いをされたことに不満を持って、家を飛び出してやくざの仲間に入ったこともあるが、今はとび職人として働けば収入もかなりある。家庭的な愛情に恵まれなかった彼は、この飯場に来て食事の世話や身の回りのものの洗濯などに、姉のような心づかいでこまごまと尽してくれるK夫の母の親切が身に滲みた。

こうして二人は結ばれ、彼によって百万の勇気を得たK夫の母は、意を決して奴れいのような生活から脱出すべく、去年十月末のある夜、飯場の者がそれぞれ外出した後の機会をねらって、二人の子供の手をひき、身の回り品を詰めた大きな風呂敷包みを提げて飛び出した。

四人の親子は落ちつく先のあてもなく、右往左往するうち夜は更け、疲れ果てて声も出なくなった揚句、とに角飛びこんだのが現在住んでいる○○屋旅館の一室だった。

飯場を無断で逃げ出したものが、発見さ

砂糖
氷砂糖
Shinko
アサヒ印
新光製糖
大阪
東京

れた時に受けるリンチの恐ろしさ、この情景を幾度となく目のあたり見てきたK夫の母は、飯場の仲間の目がこわくて外出もままならない。子供の転校手続きのためには、恐ろしいその飯場の近くの役所と学校へ行かなければならないのであるが……。

自分達が出向いて万一発見された時の彼等の非常識な暴力沙汰を考えると、どうしても決心がつかず、一日一日と手続が延びてしまったという。

しかし、遂に事件が起った。

父親は、生活のために毎日外に働きに出なければならなかったが、ある日彼は仕事の方が一段落ついたところだったので、同僚と一杯ひっかけての帰途、ほろ酔い機げんで南の方の盛場をぶらついているとき、もとの飯場の仲間とばったり出会ってしまった。

果して「ちょっと話があるから来てくれ」と呼びとめられ、数人にとり囲まれた。そして、K夫の母と一緒に飯場を脱出したことに因縁をつけて、今にも殺さんばかりに迫られた。年若い養父は、この時相手から差出された短刀で、あっさりと自分の右手小指の第一関節から切り落して、詫びをいれたという。私どもがK夫君を発見して、はじめて家庭を訪ねた時がこの事件の数日後だったわけである。

「親の都合で長い間学校を休ませましたが、何とかしてK夫を通学させるようにしますから、よろしくお手助け願います」

この母親の願いによって、センターでは前住地のH小学校へ電話連絡して、担任だったというM先生と話し合ったところ、「学校ではK夫君が去年の十月から登校しなくなったので、方々探したがどうしても行方が判らず、致し方がないので三月の学期末で一応学籍から抜いた」とのことであったが、「あの子の家庭の気の毒な事情も、うすうすは知っているので心配していたがよろしく頼みます」とのことで、M先生からK夫の三学期末までの在学証明書に添えて、叮寧な手紙がセンターに届けられた。

次は住民登録の手続き、これは担当の区役所の学事係で特別の事情を汲んで貰うことができて、地区民生委員の居住証明により、こちらの学校への仮入学の手続をとって貰うことができた。

最後に経済的な問題

母親は、この旅館の掃除婦として働いてはいるものの、父親の指の傷がなおるまでは無収入、しかもとび職人にとって右手小指の切断は致命傷である。

「役所の援助を受けるのもなかなか難かしいと思いますし、何とかして子供の学校の費用は自分でつくり出すつもりです」

と母親は、苦しい生活の中から一日十円二十円と貯金をして、やっと五百円の学用品代をこしらえ、新しく転入する学校を訪ねたという。

いよいよ明日から通学と決った六月五日の夜は、K夫と一緒に母親はいつまでも寝つかれなかったとのことであるが、無理もない。

不就学児として街頭での発見から就学までの約一カ月半、前住地の学校、現住地の学校、区役所、地区民生委員などの機関と、センターとの間に、K夫君の就学のことで電話が何回往復したことか。不就学長欠児童の問題の解決には、保護者の関心はいうに及ばず、このように各関係機関の連繋協調がなくては、困難をいよいよ困難ならしめるだけであろう。

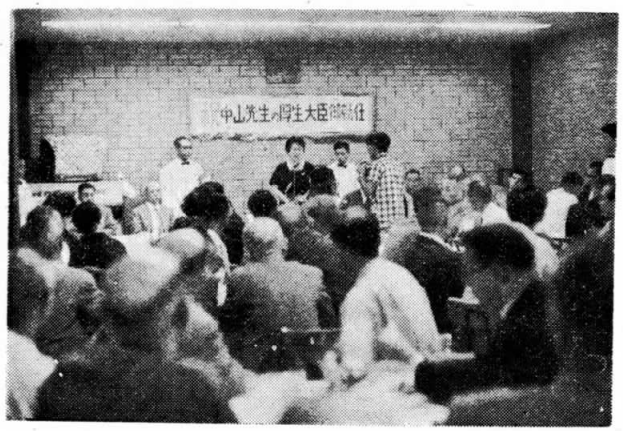
――天王寺補導センター係員――

時のうごき

中山厚生大臣の就任祝賀パーティー

社会福祉関係者の喜びと期待で

日本で初めての婦人大臣が大阪から誕生しました。大阪府選出の中山マサ代議士が、池田新内閣の厚生大臣に就任されましたので、社会福祉関係者は、大臣を囲んで懇談会をひらきました。



八月十四日（日）午後一時から府農林会館五階講堂で、中山厚生大臣就任の祝賀懇談会が開かれた。

会費は五百円で、大阪社会福祉協議会の主催。出席者は、社会福祉関係者で、各施設各団体関係等の代表者約百二十五人が集った。

先ず最初に福祉関係者を代表して、広瀬栖治氏（市社協副会長）が挨拶として立たれた。郷土の誇りと喜びのお祝いと共に厚生行政上婦人大臣の登場は意義深く、愛情の政治を期待したいとのべた。

中山厚生大臣は、奉仕する人として選ばれた職責の重要さをのべ、さらに、気の毒な人々、薄幸の子らに対して全力をあげて邁進したい旨挨拶された。

次いで、一般を代表して福定府民生部長の、府民としての喜びにたえないというお祝のことばがあった。

藤原亀太郎氏の発声による乾杯、全員の「おめでとう」があって、テーブルの上にくばられたビール、ジュースで、サンドイッチなどつまみながら和やかな懇談に入った。

社会福祉協議会を代表して橋本庄治郎氏、養護施設代表として山根敦美氏、養老施設代表として片山鼎氏、身体障害施設代表として水川清一氏、母子寮代表として片桐よしの氏、社会教育代表として河野須寿氏、老人クラブ代表として浪田岡治郎氏、従事者代表として大谷寿夫氏、保育代表として三木達氏等の各氏からお祝の言葉や期待や要望などが次々に出された。

中には、婦人が大臣になったのだから、この際厚生省の部長、課長は全部女にしてくれという女権拡張型要望もあって一同の中に笑いの渦がまき起るなど、和気あいあいの雰囲気であった。八十五才になるという小橋カツエ氏の万才三唱の発声、山野平一氏の閉会の辞によって拍手のうちに会は閉じられた。

写真は　社会福祉関係者によって行われた中山厚生大臣就任の祝賀会。中央が中山さん

問あり（毎日　余録）
☆八月二十八日（日）愛人の人殺しの流行について（産経笛）
☆八月二十八日（日）社会保障優先を忘れるな（毎日　社説）
☆八月三十日（火）ひろがる麻薬の恐怖（毎日　社説）
☆八月三十日（火）完全夫人と完全両親（朝日　みどりの広場）
☆八月三十一日（水）犯罪白書にみる性犯罪（毎日　余録）
☆八月三十一日（水）憂うべき少年犯罪の傾向（産経　社説）

事　件・ニュース

☆八月三日（水）繊維問屋街の店員難に市が診断下す（産経）
☆八月三日（水）文部省、来年度から精薄児のために国定教化書を準備（読売）
☆八月四日（木）父兄の負担軽減のため市教委近く〃学校維持運営費〃を調査（産経）
☆八月五日（金）スリラーにかぶれた高校生殺人の寸前に逮捕さる（朝日）
☆八月五日（金）中央児童福祉審議会が児童福祉の強化を答申（毎日）
☆八月五日（金）原水爆禁止大会に大阪の高校生、初の集団参加（読売）
☆八月五日（金）越境入学防止へ対策協議会発足（産経）
☆八月六日（土）沖縄の修学旅行生、盗み疑われて大阪の宿で自殺はかる（新大阪）
☆八日六日（土）五たび〃東京山谷のドヤ街〃住民騒ぐ（読売）
☆八月七日（日）保健体育審議会が文部省に青少年の体力増強五カ年計画を答申（毎日）
☆八月七日（日）第五回大阪母親大会開かる、子供と教育の問題など討議（毎日）
☆八月九日（火）母親、子供を道連れに病院から投身（朝日）
☆八月十日（水）低所得層重点の社会保障、厚生省案まとまる（朝日）
☆八月十一日（木）上六乱闘事件で暴排の声高まる（読売）
☆八月十二日（金）尼崎で補導の警官が盗癖の子に〃手を切るぞ〃と誓約書を書かす（大阪）
☆八月十三日（土）母子衛生法近く生まれる（読売）
☆八月十三日（土）〃ふえる中学生犯罪〃府警少年課が今年上半期の少年犯罪状況を発表（読売）
☆八月十三日（土）乱暴しようとして逆に少女に舌をかみ切られる助松で（新夕刊）
☆八月十三日（土）西成でピストル乱射事件（大阪日日）
☆八月十三日（土）施設の少女に家事訓練（毎日）
☆八月十五日（月）曽根崎署の家出少年の職業紹介好評を拍す（毎日）
☆八月十六日（火）ミナミで子にかせがす親など検挙（大阪）
☆八月十七日（水）阪神都市圏の国連調査団大阪入り（産経）
☆八月十七日（水）カッパ、ふくろう部隊の効奏して、海水浴場より暴力影をひそめる（毎日）
☆八月十八日（木）府警少年課〃街頭就労児童白書〃まとめる（読売）
☆八月十八日（木）職安、学校の紹介で就職した先がタイヤドロ棒の会社（毎日）
☆八月十九日（金）少年が山陽線の線路に石を置き事故をひきおこす（産経）
☆八月十九日（金）社会保障の自民調査会案まとまる（読売）
☆八月二十日（土）負けた腹いせに相手選手を殴る。宝塚市教委の少年野球大会で（読売）
☆八月二十日（土）荒木文相、教育基本法の再検討をにおわす（朝日）
☆八月二十一日（日）暴力団今度は布施でピストル乱射（日日）
☆八月二十一日（日）羽衣での暴行魔逮捕さる（読売）
☆八月二十一日（日）中学生のキャディは労基法に違反しない、労働省が通達（読売）
☆八月二十二日（月）少女茶箱詰め事件、手配の母親逮捕（毎日）
☆八月二十三日（火）政府与党青少年対策をいそぐ、倫理確立を重視（日日）
☆八月二十四日（水）府警〃旅館を利用する非行少年〃の調査結果発表（産経）
☆八月二十四日（水）厚生省、生活保護の扶助基準を26％引

きあげ方針を堅持（朝日）
☆八月二十四日（水）文部省、中学三年生対象に国定試験を計画（毎日）
☆八月二十五日（木）六甲地獄谷の愛児絞殺事件のいきさつ（新夕刊）
☆八月二十六日（金）国鉄、子どもの列車妨害に対策をねる（産経）
☆八月二十六日（金）山陽線で学童らがまた置石（毎日）
☆八月二十六日（金）西成でローティーンやくざを補導（新夕刊）
☆八月二十七日（土）市教委、中学生のトラコーマ追放運動（読売）
☆八月二十七日（土）西成に私営アパート防犯組合（産経）
☆八月二十七日（土）小児マヒの少年が水泳大会一位（産経）
☆八月二十七日（土）売れっ子の中学生就職（読売）
☆八月二十七日（土）海に捨てたと保護された芦屋の家出女中自供（読売）
☆八月二十八日（日）東区に市が心のドックを建設（毎日）
☆八月二十八日（日）六甲山の幼児殺し、母親美和子和歌山で捕わる（産経）
☆八月二十八日（日）ナゾへ沈んだ真嗣ちゃん　ノイローゼ女中の異常行動（日日）
☆八月二十八日（日）積もった一円寄金、泉北郡で貧しい家庭のお役に（朝日）
☆八月二十九日（月）幼児殺しの荒井自首、美和子を待たせておいて凶行（読売）
☆八月二十九日（月）任命教頭を拒否、淡路中学大阪市教委と対立（毎日）
☆八月二十九日（月）文部省、技術者の養成いそぐ（朝日）
☆八月二十九日（月）学校安全会、初の審査おわる（読売）
☆八月三十日（火）暴行戦前の八十倍、法務省が初の犯罪白書を発表（毎日）
☆八月三十日（火）こどもを交通事故から守ろう、新学期から運動強化（大阪）
☆八月三十日（火）夏の青少年白書、目立つ集団いたずら府警発表（読売）
☆八月三十日（火）私学教育充実へ中高連都島に研究所開く（産経）
☆八月三十一日（水）釜ケ崎一帯、カスパの面目一新へ、まず貧困救済（産経）

特集・解説もの

☆七月二十七日（水）～八月三日（水）〃夏と暴力〃(1)～(6)（産経）
☆八月一日（月）まず救貧諸策を、中山新厚相へ神近市子
☆八月二日（火）ご期待にこたえたい、神近市子さんへ、中山マサ（毎日　家庭）
☆八月二日（火）～八月八日（月）〃夏のハイティーン〃(1)～(6)（毎日）
☆八月二日（火）父親の子供に対するしつけ（朝日　家庭）
☆八月四日（木）公民館活動・全米ジャンボリー等（毎日　青年）
☆八月四日（木）ビート族映画にみる家庭（毎日）
☆八月六日（土）貧困階層の実態とそれへの対策（産経〃新政策を待つ〃の①）
☆八月七日（日）七つの子が人を殺す、どうしてこんなことが（朝日　家庭）

18ℓ缶、各種ブリキ容器
製造　販売
株式会社　東洋薄鉄板工業所
取締役社長　後藤角人
本社　大阪市天王寺区清水谷東之町689
電話　大阪(94)代3548
工場　大阪市東淀川区三国本町2～177
電話　大阪(39)1320・1459

読者のページ

≪皆さまの声をどうぞ≫

御指導を得たい

拝啓　現在小生は小学校に勤務しています。昨年校長より「少年補導」をすすめられ、いつしか興味を持ちはじめ、貴誌を愛読させていただくようになりました。就中、大野先生の寄稿は得る所大なるものがありました。

が、然し、現在の自分の勉強のやり方では物足りなく、何か系統的に研究してみたいと思うのです。しかし、それがための方法などもわかりませず、何とかしたいと夢中です。小生の進むべき道、為すべき方法などについて御指導たまわればと期待しています。なお二、三のケースをもっているのですが、参上して御指導を得たいと思うのですが、いかがなものでしょうか。（大阪府南河内郡美陵町国府、経塚　斉）

☆いつも御熱心に青少年問題を御研究下さいまして、まことに有難うございます。青少年問題はその背後に複雑多岐な要素をもつもので、一朝一夕には解決は困難でございましょうが、この解明、対策は国家的な重要な問題でございますので、今後共御研究を期待申しあげます。なお、補導センターでは相談も扱つておりますので、どうぞ御遠慮なく御出でになつて下さいませ。少年の性格によりましては、そのテスト、治療法、補導対策等懇切に御話し合いできるものでございます。

センター会館は市電椎寺町前のすぐ前で、わかり易いところです。御越しをおまちしております。

レポートの完成

私は、昼は会社に、夜は大学に通っている者ですが、「少年補導」は勉学の研究のために大変よいものと思いますので、先日バックナンバーからお願いしましたところ、早速お送り下さいまして有難うございました。貴重な資料として十分に活用させていただき、立派なレポートを完成したく思っております。今後もどうぞよろしく。（北区中之島日立造船KK、大畠久美子）

☆働きつつ学ぶということは大変でございましょうが、頑張つて下さい。青少年問題を卒論にとりあげるのはこの頃はブームのようですね。立派なレポート完成を祈ります。

編集後記

☆過去の事は何も聞かれないし、現在の生活だって誰も関心を持たない。暗い過去を背負って、絶望と欲望の二つの異った次元のものが、激しく交錯すれば、反社会的行動となって犯罪に結びつく機会が多い。そのような環境がスラムの一つの特徴だとすれば、スラムに住む子供達は、そういったムードの中で、非行少年や、問題少年に育てられる可能性が強いと言えよう。スラムと言い、カスパと呼ばれる西成の釜ケ崎地区とその周辺にスポットをあて、それらの地区の少年達がどのような状態にあるのか、その背景となっている社会的諸条件はどのようになっているのか、それらの諸点を浮彫りさせ、更にその現実の上にどのような行政と施策が進められつつあるのか、更にその将来の展望は……といった点から、本号を西成特集とした。

特集するにあたって、大阪社会学研究会のメンバーを始め、地もと関係機関、団体、その他の協力を戴き、貴重な資料、研究論文その他を御寄せ下さった方々に厚く御礼を申上げます。

少年補導十月号（第五巻第十号）　禁無断転載

（定価六〇円）

昭和三十五年九月二十五日印刷
昭和三十五年十月一日発行

発行所　社団法人　大阪少年補導協会
大阪市天王寺区六万体町換地ブロック四〇ノ一三（椎寺町電停前）
電話（77）四一〇番
振替口座大阪二五八三四

編集人　有馬朝子
発行人　宮田秀太郎
印刷所　東洋紙業株式会社

通信欄

住所

（又は送本先）

氏名

職業又は所属団体

少年補導　月号から購読しますから　カ月分（　部）金　円を送ります。

この欄は、少年補導協会あての通信にお使い下さい。